

## 秦野市立渋沢中学校

研究テーマ：生徒の『学びに向かう力』の育成  
～理科における興味関心から深い学びへの工夫～

### 1 実践の目的

3年前からのコロナ禍のため、生徒同士の話し合い活動や、学び合う活動が制限のかかる状況下で、生徒にどのようにして「深い学び」が身に付くようにできるかが、本校の大きな課題の一つであった。このような状況下で、全国的にGIGAスクール構想が推進され、一人一台学習用端末の貸与等ICT環境の普及が急激に進んだことは新たな学びの仕組みづくりに大きく貢献している。

本校では、ICT機器の効果的な活用について、市の「ICTマイスター制度」や研修会等を活用しながら、生徒が「深い学び」を身に付けていくための効果的な活用方法について研究してきた。

今年度は特に1年生の理科に着目し、「実験」と「ICT」の効果的な活用について年間を通して研究、実践を行った。また、授業者が1年経験者研修該当者のため、自身の研修機会も活用することとした。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研修の体制

市の学びづくり実践研究推進校として取り組みをスタートした。職員全体で研修を進めるが、その中で特に「理科」に着目し、実験とICTの活用から生徒の主体的な態度の醸成や深い学びにつながるよう研究を進める。

年間計画としては次の通り。

- 4月 授業推進  
教科部会内研究
- 5月 授業推進
- 6月 授業推進  
教育指導員訪問  
教科部会内研究
- 7月 研究授業「光による現象」
- 8月 全体公開研修会（学びに向かう力を育むために）
- 9月 授業推進
- 10月 授業研究会  
教育指導員訪問
- 11月 授業推進
- 12月 公開授業
- 1月 授業推進
- 2月 授業研究  
教科部会内研究
- 3月 研究のまとめ

#### (2) 校内研修会の様子

8月23日（火）10:00  
「学びに向かう力を育むために」

講師に市教育委員会指導主事を招き、令和4年度の本校の全国学力・学習状況調査の結果を活用するために、分析や情報提供をしていただいた。

実際に課題に取り組むなどして、本校の実態を把握し、授業改善に繋げることができた。

### (3) 研究授業、研究協議の様子

#### ア 教育指導員訪問1

6月1日(水) 2校時

1年2組 理科

『動物の体のつくりと生活』

中教育事務所の教育支援員により、タブレット活用と教員の効果的な発問の仕方についてご指導をいただいた。

「一人ひとりの発言を拾いながら、深い学びへ導けるといい」など、アドバイスをいただいた。

#### イ 教育研究所指導主事訪問

6月8日(水) 2校時

1年2組 理科

『光・音・力による現象(光による現象)』

秦野市教育研究所指導主事により、生徒の、学びに向かう態度を育てることに重きをおいてご指導をいただいた。

「生徒に、『なぜ?』を多くぶつけることもいいが、生徒自ら『なぜ?』と疑問を抱かせ知りたいたいと思わせる工夫が必要」などご助言をいただいた。

#### ウ 教育指導員訪問2

10月21日(金) 2校時

1年2組 理科

『光・音・力による現象(力による現象)』

中教育事務所の教育支援員により、実験を通して生徒の学びに向かう過程に着目しながら、ご指導いただいた。

主に、バネを使った実験だったが、「体重計など身近なものに置き換えて考えさせるなどの工夫が必要」とアドバイスをいただいた。

#### エ 公開授業

12月20日(水) 1校時

1年2組 理科

『身の回りのものから発生する気体  
中教育事務所の指導主事、秦野市教育指導課指導主事及び、市内の理科担当教諭に呼びかけオープン授業を計画したが、残念ながら、授業者体調不良のため中止となった。その後、日程調整ができず、公開する機会はなかった。

## 3、実践の成果

### (1) 教師の変容

- ・ICTの活用について研究テーマとしたことで、より具体的な支援方法が検討されたこと。
- ・校内研究会での学力・学習状況調査の活用について研修を受けたことで、今後の教科指導について、より具体的な目標や方法等が話し合われたこと。
- ・校内でICTの活用推進意識の強化がなされたこと。

### (2) 子どもの変容

- ・ICTを活用することで、対話が苦手な生徒でも、自分の意見が癒えるようになった。
- ・興味関心を持って教材に向かうようになった。
- ・実験の振り返りがやりやすくなった。

## 4、今後の展開

### (1) 残された課題への対応

- ・教科、個人によってICT活用度が違うこと
- ・生徒支援の一つのツールとして活用方法を今後も研究する必要あり。
- ・学習指導要領の示す、「対話的」「主体的」「深い学び」の達成に向けて授業改善
- ・学び合いができる環境の向上など